

3-11

主題	多職種によるチームケアで生まれた信頼関係の構築
----	-------------------------

多職種との連携

副題	褥瘡ケアを通して学んだこと
----	---------------

研究期間	4ヶ月
------	-----

事業所	特別養護老人ホーム 多摩の里けやき園
-----	--------------------

発表者：森 健太（もり けんた）	アドバイザー：
------------------	---------

共同研究者：相馬 修・竹川 真一

電 話	042-460-8151	メール	
-----	--------------	-----	--

FAX	042-460-8152	URL	
-----	--------------	-----	--

今回発表の 事業所や サービスの 紹介	平成17年に開設しました114名定員のユニット型特養です。 全室個室でゆとりのある居住空間を提供しています。「その人らしさを大切に」 の法人理念のもと、ご利用者が快適に過ごせるように自立支援を行っています。
------------------------------	---

《研究前の状況と課題》

取り組み前は、ケアを行なうにあたって、各部署との連携が思うように図れず、連絡・報告が中心のいわば一方通行の状態であった。

原因としてそれぞれの部署が、専門分野の知識しかなく、他部門の知識が不足していた。それにより、ケアを行っていく上で意見や情報の食い違いが発生してしまい、共通の目標に沿ったケアが出来ていなかった。

また、ケアの話し合いでは部署の責任者が参加することが多く、ユニット職員と認識の温度差が原因であった。

今回、その問題を解決する為、褥瘡ケアを通し、介護課・医務課・栄養課・理学療法士・相談員との連携を深める為、カンファレンスを開き、各部署との情報の共有化を目指した。

《研究の目標と期待する成果》

研究の目標

- ・ 現在の情報のやり取り、ケアの問題点を見直し、各部署との情報の共有化・連携を図り、一つの目標に向けチームで取り組んでいく。
- ・ 専門分野の知識の向上とそれぞれが持っている分野の知識を情報交換し、知識の向上と共有化を図る。
- ・ 褥瘡対象者への有効的なケアの実現への体制作りを目指し、取り組んでいく。
- ・ 今回の取り組みを通して当園でのケアに対するチームアプローチの方法を確立。

期待する成果

- ・ 褥瘡完治に向け、情報の共有化・連携を行い取り組むことによりチームワーク力のアップ。
- ・ チームで目標を達成することにより、職員のやり甲斐を見つける。

《具体的な取り組みの内容》

○・Ｙさん 89 歳 女性 要介護度 4
左長骨に 1.8×1.4 cmの創部壊死状態ステージⅢの褥瘡が形成された。

- ・ 現状、ケアの方法については、医務課主任、介護課主任、栄養士の3名にて決定することが多かったが、今回は、ご利用者・ご家族と関わりを多く持つ居室担当者を中心としたチームを形成。
- ・ チームは、医務課、栄養課、生活相談員、介護課係長、介護課主任、居室担当者とし、ケアカンファレンスを数回実施。
- ・ ご家族に対しては、居室担当者がケアに対して意見交換を密に行い、ご家族の不安や疑問についてチームに相談。
- ・ 相談を受け、ご家族とチームメンバーによる会議を行い、それぞれの専門分野より説明を行い、ご家族の不安を解消。その上で、ご家族と全部署で、計10項目のケア内容の共通認識を図った。

《取り組みの結果と評価》

- ・ 各部署との連携が図れたことにより、情報の共有化ができた。
- ・ ご家族の不安や疑問点を居室担当が受け止め、チームで内容を検討することにより、ご家族とも連携が図れ、ケアへの理解と協力が得られた。
- ・ 結果、皮膚科医からは、患部は手術を行なわないと治癒しないと言われた状態から、約2ヶ月の取り組みで、患部治癒を実現した。
- ・ ご利用者の状態アップやチーム内に達成感が生まれた。
- ・ 今回の取り組みを通して当園でのケアに対するチームアプローチの見本となり、他職員への参加や理解が深まった。

《まとめ》

- ・ 全スタッフが一つの目標を理解し、チームで取り組むことにより大きな成果を得ることができた。
- ・ 今後も褥瘡ケアに限らず多職種との連携によるPDCAのマネジメントサイクルを展開し、チームでケアに取り組んでいき、ご利用者本位のサービスの実現を行なう。
- ・ 工夫と改善を行い、現状に満足せず常に質の高いサービスを目指す。

《提案と発信》

【メモ欄】追加資料 有 無

注：参加者が自由に記入できるスペースです。空欄のまま提出下さい。